

# 第 38 回日本臨床細胞学会

## 北陸連合会学術集会

### プログラム

司会者　笠島　里美

(金沢大学医薬保健学域保健学系病態検査学)

期日：令和 4 年 9 月 4 日（日）13：00～17：10

会場：Zoom ウェビナー

主催：日本臨床細胞学会北陸連合会

## 【参加者へのお願い】

### 1. 一般会員・未入会員の方へ

- 事前登録による Zoom ウェビナーでの参加のみです。対面参加はできません。
- 参加費は 1,000 円です。事前登録による PayPal でのお支払いに限ります。
- 以下の QR コードから事前参加登録システムに入ることができます。



### 2. 一般演題演者の方へ

- 発表時間は 7 分以内、討論時間は 3 分です。
- 発表形式は PowerPoint データのオンライン動画配信のみです。
- 8月末日までに音声を録音した PowerPoint データを世話人に提出して下さい。
- 発表後、質疑応答に対応するため Web 参加でご待機下さい。

### 3. 細胞診専門医の方へ

- 細胞診専門医資格更新 2 単位が認定されます。
- 学会終了後、世話人から参加証をメールで送付します。
- 日本産婦人科学会専門医制度研修単位は、学術集会等参加登録単位：2 単位、産婦人科領域講習単位：1 単位が認定されます。

### 4. 細胞検査士の方へ

- JSC 15 単位、IAC 5 単位が認定されます。
- 後日、各県事務局から出席シールを郵送します。

---

世話人：金沢大学医薬保健学域保健学系病態検査 笠島里美

TEL : 076-265-2602 FAX : 076-234-4369

E-mail : 36hokuriku@gmail.com

事務局：石川県立中央病院医療技術部病理検査室 大西博人

TEL : 076-237-8211(内 2050) FAX : 076-238-5366

E-mail : cytooffice@ipch.jp

# プログラム

スライドセミナー標本（北陸連合会 HP : <https://www.jscc-hokuriku.com/> ）

11：00 学会賞選考委員会 (Zoom 会議)

11：30 幹事会 (Zoom 会議)

13：00 開会の辞 金沢大学保健学系病態検査学 笠島里美

13：05～14：05 一般演題 座長 金沢医科大学病院 病院病理部 山田壮亮

14：05～14：20 総会

14：20～15：00 特別講演 司会 金沢大学医学系人体病理学 原田憲一

「膵がん難治性の細胞特性 ーその仕組みと私たちの取り組みー」

源 利成 先生 (金沢大学がん進展制御研究所)

15：00～15：10 休憩

15：10～16：10 教育講演 司会 金沢大学医学系分子細胞病理学 前田大地

「Serous ovarian tumor とその関連病変の病理と細胞診」

森谷 鈴子 先生 (滋賀医科大学附属病院病理部)

16：10～17：10 スライドセミナー 座長 石川県立中央病院病理診断科 湊 宏

17：10 閉会の辞 金沢大学保健学系病態検査学 笠島 里美

**13：00 開会の辞 笠島里美 (金沢大学保健学系病態検査学)**

**13：05 一般演題 座長 山田壮亮 (金沢医科大学病院 病院病理部)**

### **1. 診断に難渋した甲状腺未分化癌の1例**

○田辺経子, 鎌田公美子, 松川遙佳, 古市和美, 森 正樹, 山口愛奈, 橋口翔平, 今村好章  
福井大学医学部附属病院 病理診断科／病理部

60歳代、女性。約3週間前より左頸部腫瘤を自覚。その後左頸部痛が出現したため受診。エコーで甲状腺左葉に腫瘤を認めたため、FNA が施行された。細胞診では炎症性背景に単核細胞と多核細胞が散見された。診断困難であったため生検を依頼したところ、組織学的には比較的密な単核細胞の増生から成る病変で、多核細胞が種々の程度に混在していた。免疫染色ではどちらの細胞も甲状腺濾胞上皮のマーカーと calcitonin は陰性であった。

### **2. 腹水中に出現したGISTの1例**

○伊藤淳子<sup>1</sup>, 中屋佳子<sup>1</sup>, 河原 栄<sup>2</sup>

<sup>1</sup>福井総合病院検査課, <sup>2</sup>同 病理診断科

症例は60代男性。胃膨満感を主訴に当院受診。CTにて腹腔内に径15cmまでの腫瘍が多数認められ、原発不明癌の腹膜播種疑いで開腹生検施行。大網内に結節多数認められ、FFPE切片でGISTと診断された。開腹時の腹水細胞診では腫瘍細胞を見出すことは出来ず陰性と報告したが、後日、細胞診標本にてc-kitの免疫染色をしたところ陽性細胞が認められた。今回c-kit陽性細胞の形態とパパニコロウ染色の細胞を比較検討して報告する。

### **3. 膵 Solid pseudopapillary neoplasm (SPN) の一例**

○杉口祐恵<sup>1</sup>, 古村貴大<sup>1</sup>, 山城真磯<sup>1</sup>, 福田弘幸<sup>1</sup>, 三井由紀子<sup>1</sup>, 西田秀昭<sup>1</sup>, 中嶋隆彦<sup>2</sup>,  
濱島丈<sup>3</sup>, 奥野のり子<sup>3</sup>, 平林健一<sup>4</sup>

<sup>1</sup>市立砺波総合病院 臨床病理科, <sup>2</sup>同 病理診断科,

<sup>3</sup>富山大学学術研究部医学系 病態・病理学講座, <sup>4</sup>同 病理診断学講座

症例は15歳女性。腹痛のため当院救急科受診。腹部造影CTにて脾頭部に囊胞性腫瘍を認めEUS-FNAが施行された。細胞診で豊富な毛細血管周囲に壊死に陥った多数の腫瘍細胞がみられた。神経内分泌腫瘍(NET)との鑑別を要したが、少量みられたviableな細胞にNETに特徴的な細胞所見は明らかではなかった。組織診では壊死に陥った腫瘍細胞と特徴的な免疫形質からSPNに矛盾しないと判断した。後日、脾頭十二指腸切除術が施行されSPNと診断した。

#### **4. 卵巣漿液粘液性境界悪性腫瘍の切除 6 年後に類内膜癌として再発した 1 例**

○梅原瑠子, 小嶋洋美, 藤野 匡, 山岸 豊, 黒瀬 望, 川島篤弘

国立病院機構金沢医療センター 臨床検査科

40 代女性。X-7 年、前医で 3cm 大の右卵巣腫瘍を指摘され、X-6 年再診。MRI では充実部があり当院に紹介され、右卵巣摘出術が施行された。粘液を容れた囊胞性腫瘍で、ごく一部に微小浸潤癌を伴う境界悪性漿液粘液性腫瘍と診断された。経過観察されていたが、X-1 年に右付属器領域に画像上、囊胞性腫瘍が指摘され、当院に紹介となった。MRI・CT では 8cm 大の腫瘍であり、X 年、子宮全摘・両側付属器切除術が施行された。漿液粘液性境界悪性腫瘍由来の類内膜癌と診断された。両者の捺印細胞像を比較提示する。

#### **5. 小細胞癌への転化をきたした EGFR 遺伝子変異陽性肺腺癌の 1 例**

○野口 馨<sup>1</sup>, 石澤 伸<sup>2</sup>, 宮本藤之<sup>1</sup>, 酒井哲也<sup>1</sup>, 内山莉奈<sup>1</sup>, 矢野彩子<sup>1</sup>,

清水雅彦<sup>1</sup>, 岡山友里恵<sup>2</sup>, 相川あかね<sup>2</sup>, 中西ゆう子<sup>2</sup>, 内山明央<sup>2</sup>

<sup>1</sup>富山県立中央病院 臨床検査部検査科, <sup>2</sup>同 病理診断科

EGFR 遺伝子変異陽性肺癌は EGFR-TKI が高い奏功率を示すが、その後耐性化をきたし、そのうち 2~15% が小細胞癌へ転化するとされている。今回我々は、小細胞癌への転化をきたした EGFR 遺伝子変異陽性肺腺癌の 1 例を経験したので報告する。症例は、70 歳代、男性、5 年前に EGFR 遺伝子変異陽性肺腺癌と診断され、治療するも耐性化。胸水の貯留が認められ細胞診が施行され小細胞癌が疑われた。組織型検索ならびに遺伝子検査のため EBUS-TBNA が施行され小細胞癌と診断された。

#### **6. ROS1 融合遺伝子陽性の若年発症肺腺癌の 1 例**

○川上麻里絵<sup>1</sup>, 寺内利恵<sup>1</sup>, 竹中美千穂<sup>1</sup>, 大兼政良育<sup>1</sup>, 津幡裕美<sup>1</sup>, 高田麻央<sup>1</sup>,

清水 瞭<sup>1</sup>, 山下 学<sup>1</sup>, 塩谷晃広<sup>1,2</sup>, 熊谷泉那<sup>3</sup>, 山田壮亮<sup>1,2</sup>

<sup>1</sup>金沢医科大学病院 病院病理部, <sup>2</sup>同 臨床病理学, <sup>3</sup>同 病理学 II

【症例】20 代男性。主訴は心窓部不快、嘔気。前医で心嚢水貯留を指摘され、当院を受診。【CT 所見】心嚢水、胸水、腹水が貯留し、肺野には小粒状影が多発し、小葉間隔壁肥厚を認めた。【心嚢水細胞所見】核の大小不同、クロマチン増加を示す異型細胞を認めたが、患者が若年者であったため反応性中皮と診断した。最終的にはセルブロックの免疫染色、遺伝子検査より ROS1 融合遺伝子陽性の肺原発腺癌と診断した。

**14：05～14：20 総会**

**14：20～15：00 特別講演**

司会 原田憲一 (金沢大学医学系人体病理学)

**「膵がん難治性の細胞特性**

**—その仕組みと私たちの取り組み—**

源 利成 先生 (金沢大学がん進展制御研究所)

**15：00～15：10 休憩**

**15：10～16：10 教育講演**

司会 前田大地 (金沢大学医学系分子細胞病理学)

**「Serous ovarian tumor とその関連病変の病理と細胞診」**

森谷 鈴子 先生 (滋賀医科大学附属病院病理部)

**16：10～17：10 スライドセミナー**

座長 湊 宏 (石川県立中央病院病理診断科)

- |        |                  |      |
|--------|------------------|------|
| 1. 出題者 | 福井大学医学部附属病院病理診断科 | 今村好章 |
| 回答者    | 富山市立富山市民病院臨床検査科  | 村元奈摘 |
| 2. 出題者 | 富山大学附属病院病理診断科    | 野口 映 |
| 回答者    | 公立能登総合病院臨床検査部    | 武田 遼 |
| 3. 出題者 | 国立病院機構金沢医療センター   | 黒瀬 望 |
| 回答者    | 福井県健康管理協会検診課     | 荒木淑子 |

**17：10 閉会の辞 笠島里美 (金沢大学保健学系病態検査学)**

**【協賛企業】**

**株式会社インテック**

**株式会社片岡**

**平野純薬株式会社**

**(順不同)**



病理・細胞診検査業務支援システム

# エクスパス Expath 4

「病理・細胞診」に携わる  
すべてのひとのために  
蓄積されたノウハウで  
最適なシステムをご提供します。  
卓越したSEスキルにより  
円滑なシステム構築をサポートし  
医療の高度化・効率化へ貢献します。



## “着る”で革新と ひらめきを

LABTAS WHITE COAT



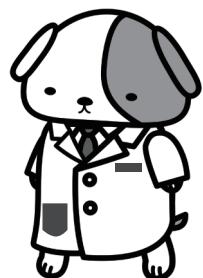
『着た瞬間に、いつもと違う、楽しくなる』  
LABTAS+ WHITE COATをとどける想い。  
SHIPSが基本とするファンション性と機能性能を  
備えた、ものつくりへの想い。

LABTAS+とSHIPS uniform works の二つの想い  
のコラボレーション。  
スタイリッシュでありながら、メディカルや  
ラボラトリ、あらゆるシーンで着ていただく  
ための基本性能を満たしたWHITE COATが  
誕生しました。

Men : S / M / L / LL

Women : S / M / L

¥6,500-(税込¥7,150-)





人と人とのふれあいを  
大切にする企業であり続けたい。



**平野純薬株式会社**

Creative Power & Technical Innovation

[福井本社] 福井市下馬2丁目1420番地  
[金沢支店] 金沢市直江西1丁目100番地  
[富山支店] 富山市石坂1117番1

TEL.0776-37-4890 FAX.0776-50-1707  
TEL.076-239-0758 FAX.076-239-0753  
TEL.076-442-4890 FAX.076-442-1707

平野純薬



<http://www.hirano-j.co.jp/>